

PRESS COLLECTIVE

— SPRING 2019 —

collective vol.46

2nd March 2019

@event space 雲州堂



edit: tawaki text: 楠田行展, Itaru Wakui, KMA a.k.a. kengomatsui design: yukiokimura.com special thanks: MSQ, スズキトヨコ

MSQ & スズキトヨコ インタビュー

今回のゲストはファンクやラテンなどのパーティをオーガナイズする関東出身のMSQ(無策さん)と大阪出身のスズキトヨコ(よっこちゃん)夫妻。雲州堂で二人の音楽への関わりについてお話を伺いました。

—お二人の音楽遍歴は？

MSQ(以下M)：10代の頃パンクバンドでドラムやっていました。THE CLASHを通じてレゲエを聴くようになり、THE JAMの「Move On Up」のカバー(原曲：CURTIS MAYFIELD)を通じてソウルを聴くようになりました。そんな流れでヒップホップも聴くようになったんです。2002年「DEV LARGE RYUHEI THE MAN」KASHI THE HANDSOME D] DENKAの4人でリリースした「Brothers On The Run」というミックステープを聴いたのがきっかけでファンクにハマっていきま



Brothers On The Run

—よっこちゃん？

スズキトヨコ(以下S)：私の原体験はディスクです。中学生の時に友

達のお姉ちゃんにディスクに連れて行ってもらっていて、そこで「これからヒップホップが流行るらしいで」って情報得たり(笑)。

—いったい何歳なんですか(笑)。ちなみにどのディスクでしょう？

S：OOOやJUBILATIONです。ディスクに行けるような服を持ってないから、肩パッドの入った鎖の柄のシャツを借りたりして(笑)。

—悪ざしてますねー。

S：そこからディスク聴いたり、ソウル聴いたり。少し歌もやっていたので、歌詞もちゃんと見たくて、自分が買う音源はすべてCD。昔は今みたいに簡単に歌詞検索できない時代でしたから。DもずっとCD)だったんですが、宮本雅夫さんがやっているFREKS OSAKAでお世話になるようになった2年ぐらう前からレコードでDをするようになりまして。

—お二人の出会い？

M：大阪で行われていたファンクのパーティです。17、8年ぐらう前はファンクのイベントを探してもほとんどなかったんで、僕は大阪をはじめ色々足を運んでいました。

—Dをする時に一番大切にしていることは？

M：ノリです。Dにはキレイにつないだり、ピッチ変えずにフルでかけたリ、様々なスタイルがあるけど、自分は無理矢理ブッこんだりし

て怒られる。基本、フロアを怒らすのが好きです(笑)。フロアに「媚びる媚るな偏るな」なスタイルで。ラテンのイベントでもDをするんだけど、速い曲をかけると足が止まったりして。日本では社交ダンス的な側面があるけど、自分はラテンのストリートな部分に魅力を感じたので、型にはまらない形でぶっ壊していきなあと。

—ラテンも守備範囲にしているのは面白いですね。

M：和ジャズにハマっている時に聴いた原信夫の「ソーラン節」がめちゃくちゃかっこいいラテンで。そこからラテンにも更に深めにハマりました。和ジャズはDEV LARGEさんに連れて行ってもらったUNIVERSOUNDSでオーナーの尾川雄介さん(和ジャズの本を執筆したり、リイシューを手がけています)から色々教えていただきました。もともと自分はドラムが好きなので、ジャズでもドラムがかっこいい盤を中心にチェックするようになって。そんななかで出会った猪俣毅の「Sound Of Sound L.T.D」の影響が大きかったです。そこから和ジャズにのめり込むようになりました。

—幅広く聴いているMSQさんですが、最近はどうなパーティをやっていますか？

M：ラテンに深くハマるきっかけを作ってくれた越後修一が主催するSOUNCOではラテンを中心に。

Spotはソウルやファンクを中心にグッとくる選曲をするDが集まっています。Reality Bitesはジャンルを絞らず驚きのある組み合わせで、この前はガッキー(collectiveのYU)にも参加してもらいました。今回のcollectiveをはじめ、音の場、仲間や先輩方に様々な現場に誘ってもらっています。感謝！

—よっこちゃんはどんな感じでっちゃん？

S：FREKS OSAKA以外だと「今夜もランデヴー」というイベントをやっています。Dは3児、2児、1児の母親でもある3人でやっているのですが、「大人も子供も一緒に楽しめるイベント」みたいなのは私自身が得意でなくて、どうせならちょっと危ない感じのをやるっていうのがコンセプト(笑)。

—フライヤも誘発しています。

S：道に落ちているエロ本みたいな画像を皆で探して、D兼デザイナのマヤリン(mayarin)がフライヤを作ってくれています。3月23日に6回目の「今夜もランデヴー」をしますので、是非遊びに来てください。

(インタビュー／yu、tawaki、楠田行展)



「今夜もランデヴー」フライヤー

Broken Radio Nightの話

楠田行展



Donald & Fagen がパーソナリティを務める「Broken Radio」の番組は音楽やレコードを中心にありだ、こーだ喋ったりする情報番組です。番組についてcollectiveへのゲスト出演を機に「ご存知の方も多いと思いますが、お二人は2月10日、奈良市Bar Oで番組名を冠した初のイベント「Broken Radio Night」をスタートしました。楠田は栄えある1回目に特別枠でDJさせていただきました。二人は初回から危険な賭けに出してしまいました。

「よく声を掛けてくれたもんなや♥」。1月20日未明、Fagenさんからお誘いのLINEを受けた僕はニヤリと既読。嬉しい半面、番組のファンとして「自分が初回に参加して良いのか」とも思いましたが、時間割には当日は19時開始でDJ

は1トータルで3時間とありました。短時間集中型イベントで割り当ては一人一時間。DJ後に「懇親会」を設けるのが特徴のようで、「お二人となら楽しくやれそうじゃあないか。是非ッ」と参加を表明しました。

僕は、ご二人をお客さん全体の指標に考え、「なるべく発見のある選曲」を心掛けました。シティポップやブルコンにエレクトロを和えたのが今回の訴求点で、当日掛けた西城秀樹の「Rain」や八神純子「Communication」は代表例。The Alpha「Sensation」も然りです。ホストの二人は、Donaldが角松敏生しか掛けない暴挙に出たほか、いつになく酔っ払ったFagenが気持ち良さげに「recordsをプレイするなど想定以上に」のりノリ天国でした。

随所に二人の「らしさ」を発揮し1回目を盛況のうちに終えた「Broken Radio Night」。回を重ねるごとに独自のスタイルを確立することと思えます。僕にとっても久方ぶりのcollective外でのDJで非常に良い経験になりました。ご来場いただいたお客さま、Donald & Fagenのお二人にこの場をお借りし改めて御礼申し上げます。有難うございました。

次回のイベント情報はBroken RadioのTwitter (@brokenradio_) でチェックを！本放送はPodcastアプリをダウンロードしBroken Radioで検索してください。

ガラにも似合わず

Itaru Wakui

冬といえば鍋。あつたまるうえに野菜、お肉、お魚、さらに麺ごはんとなんでもおいしくどっさり食べられてお腹は大満足。なおかつ洗いの少量と三方よしどころか全方位よしな食べ物。とはいえバリエーションは限られがち。そこで工夫してみたいのが出汁。

というわけで、わたしはときどき鶏ガラを買って来てスープをとるんです。これが案外と簡単なのでぜひ試してもらいたいと思います。鶏ガラは、ご存知の方も多いでしょうがスーパーでも最安に数えられるであろう品物で、だいたい100円もせずに売っています。その鶏ガラといっしょに入れるのは白ネギの先の青い部分とシヨウガがあれば十分。冷蔵庫のなかに余らせた野菜を試してみるといっても慣れてくれればアリなんじゃないでしょうか。



で、鍋には水・鶏ガラ・野菜を入れてあとは火にかけるだけ。灰汁が出ますんでときどきすくっておけば、それ以外にすることもありません。沸騰させずに弱火で炊けば透明なスープ、フタをして強火でぐらぐらと炊けば白濁したスープになりますのでそこは好みで。あるいは、わたしがかつて試みたのは、一番出汁として透明なスープをとったあと、二番出汁として白濁スープを炊き込む、という方法です。二番出汁はさすがに鶏の風味が薄れたような気もしますが、「透明から白濁へ」という同じ食材に起こる変化への興味、そしてそれ以上に自ら作ることへの満足感からはそんな味に対する厳しい点数付けもすぐに吹き飛びます。なお、たっぷりとしたスープは濾して冷ましてから保存容器に入れて冷凍しておけば重宝します。

このスープでお鍋をするときには具として豚肉を入れるとうまみが増されて一段とおいしさが増します。またうどんすきのようなカツオ出汁の鍋のときには入れないもやしも、このスープなら相性抜群です。そして食べるときにはぜひ「シヨウウを効かせてください。シメにはやはりラーメンがおすすめですが、うどんやソメメンもよいと思います。いつも同じ具材でも出汁が違うだけでまったく別料理として楽しめますのでぜひお試しあれ。

Carboot Soul /

Nightmares On Wax



label: Warp Records (1999)

英国の名門レーベル、WARPの最古参アーティストによる1999年に出た3rdアルバム。名前は知ってはいたものの、きちんと聴いたことがなかった僕ですが、なぜだか2018年のある日、ふと「ナイトメアズって今の俺の好みちゃう？」と天啓があり、サブスクリプションで全作聴いたのですが、自分にはこれがベスト。ヒップホップ/ソウル/ダブなどのブレンドによる、リラクシン/チル/スモークで暖かなミドルグループ。他作品だとダブ/レゲエ成分が多めですが、この作品は控えめの構成。上げ下げしない、いい湯加減のグループです。「引き」というのはやはりあるもので、まさに今制作中の僕のニューアルバムテイストとも根っこに通じるころがあり、天啓に感謝です。次のcollectiveにはぜひ披露できるかと。乞い期待！

(KMA a.k.a. kengomatsui)